

ヤコブ

聖徒たちと歩む聖書 ~21~
ヤコブ その4

「神との格闘の果てに」

創世記32~33章 ヤコブからイスラエルへ

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. エサウとの再会に備えて

II. ヤボク川での格闘

III. エサウとの再会

IV. まとめと適用

ヤコブのように

自分の使命に立ち向かおう

ただ主を頼りとして



0. ふりかえり



神は、選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承されていく。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

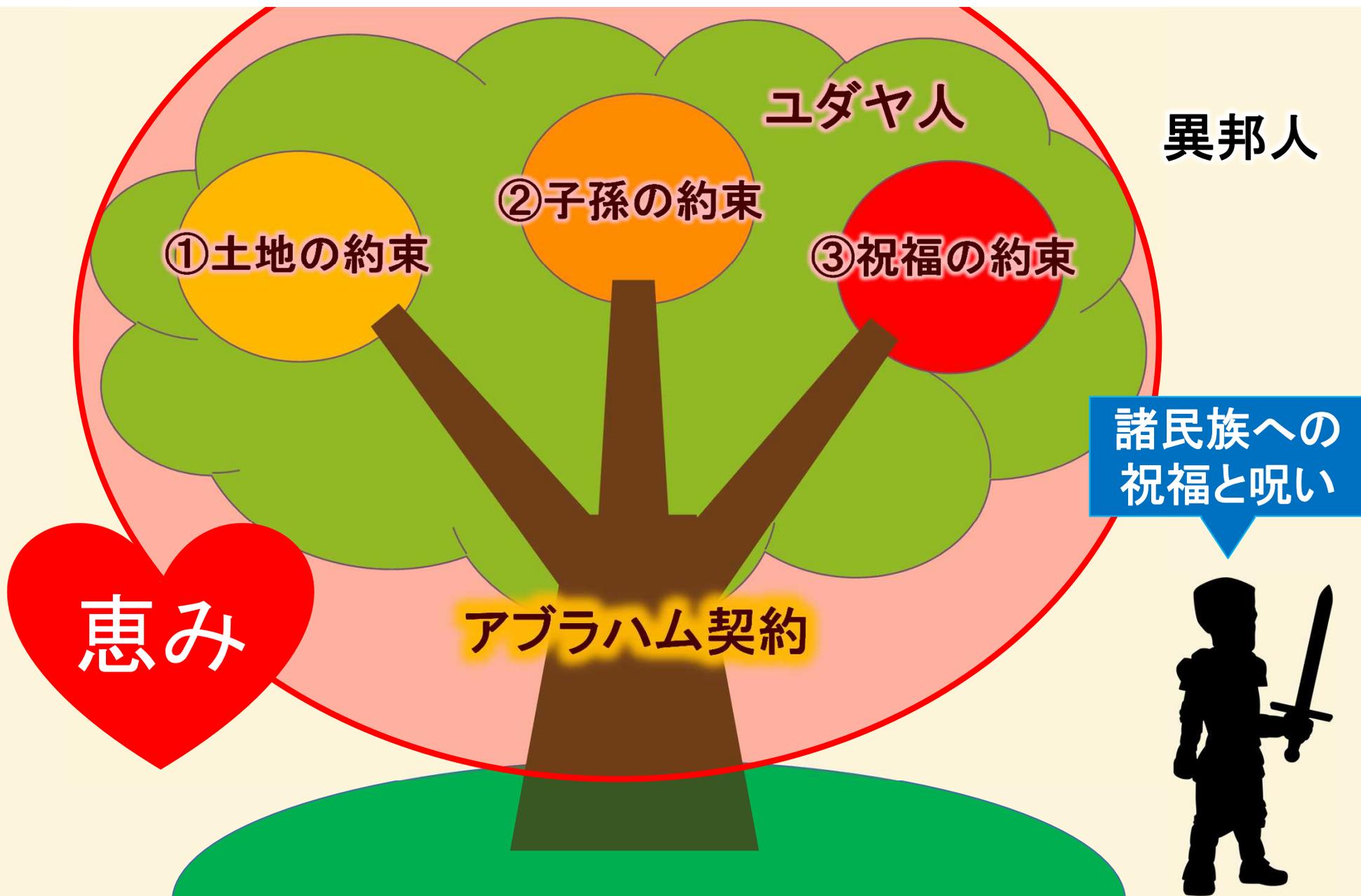
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

例)エジプト、ゲラルでの出来事。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】

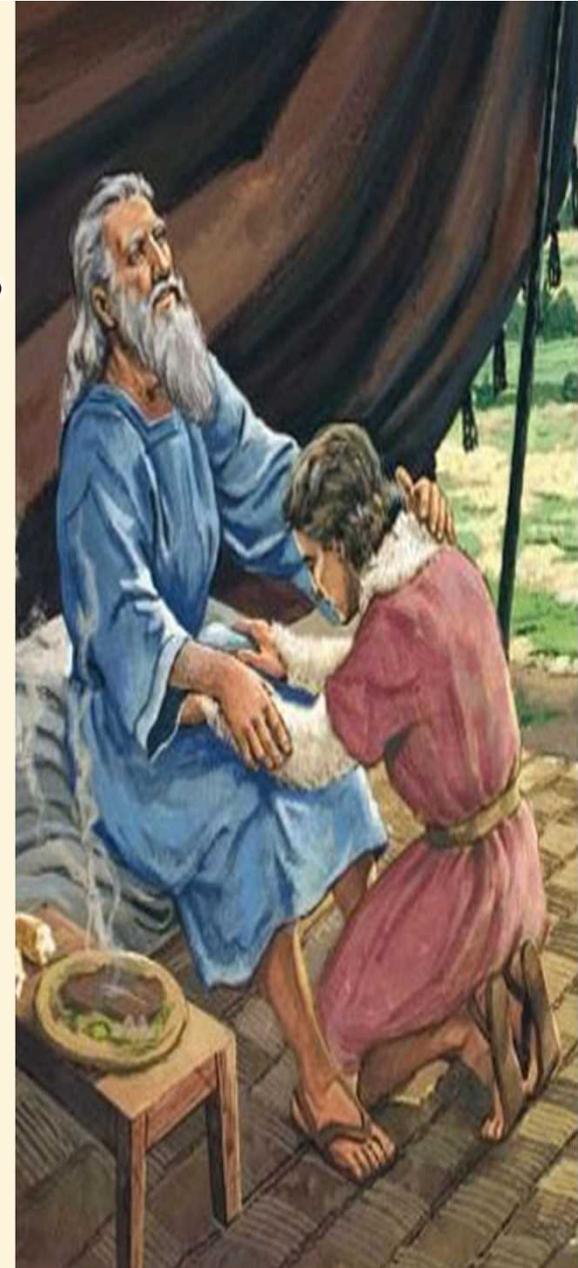


【トルドット・時代区分】

①2:4~4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1~6:8	「これはアダムの <u>歴史の記録</u> である」
③6:9~	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1~	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10~	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27~	「これはテラの <u>歴史</u> である」 アブラハム編
⑦25:12~18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19~35:29	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 ヤコブ編

【三代目ヤコブの誕生・旅立ち・契約の継承】

- 父イサク60歳の時に誕生。双子の兄エサウの“かかとをつかんでいた”ことが、ヤコブの名前の由来。
- 神は、“兄が弟に仕える”と、予告されていた。
- 父イサクを欺し、兄エサウの怒りを招き、旅だったヤコブに主は、アブラハム契約を継承された。
- ハランで、二人の妻を娶ったヤコブは、強欲な叔父ラバンとの葛藤の末に、20年ぶりに故郷を目指す。



【ヤコブへの神の約束】 創28:13～15

- そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。
- わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。
- あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、
- 地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。
- 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

神の御名の宣言

①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

神の守りの約束

アブラハム
契約





I. エサウとの再会に備えて
創32:1~32:23

▲
ハラシ

▲ベテル

▲ベエル・シェバ

セイルの山地

【エサウとの再会を前に】 創 32:1～3

さてヤコブが旅を続けていると、神の使いたちが彼に現れた。ヤコブは彼らを見たとき、「ここは神の陣営だ」と言って、その所の名をマハナイムと呼んだ。ヤコブはセイルの地、エドムの野にいる兄のエサウに、前もって使者を送った。

■ 自分の陣営と共に、神の陣営がいると

励まされたヤコブは、兄のエサウに使者を送った。

* エドム ...赤い地。豆スープも、“赤いやつ”

エドム人⇒エサウの子孫。

■ エサウから、400人を連れてくると返答があり、怖れたヤコブは、宿営を二つに分けた。



【ヤコブの祈り】 創32:9～12

「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。かつて私に『あなたの生まれ故郷に帰れ。わたしはあなたをしあわせにする』と仰せられた【主】よ。

32:10 私はあなたがしもべに賜ったすべての恵みとまことを受けるに足りない者です。私は自分の杖一本だけを持って、このヨルダンを渡りましたが、今は、二つの宿営を持つようになったのです。

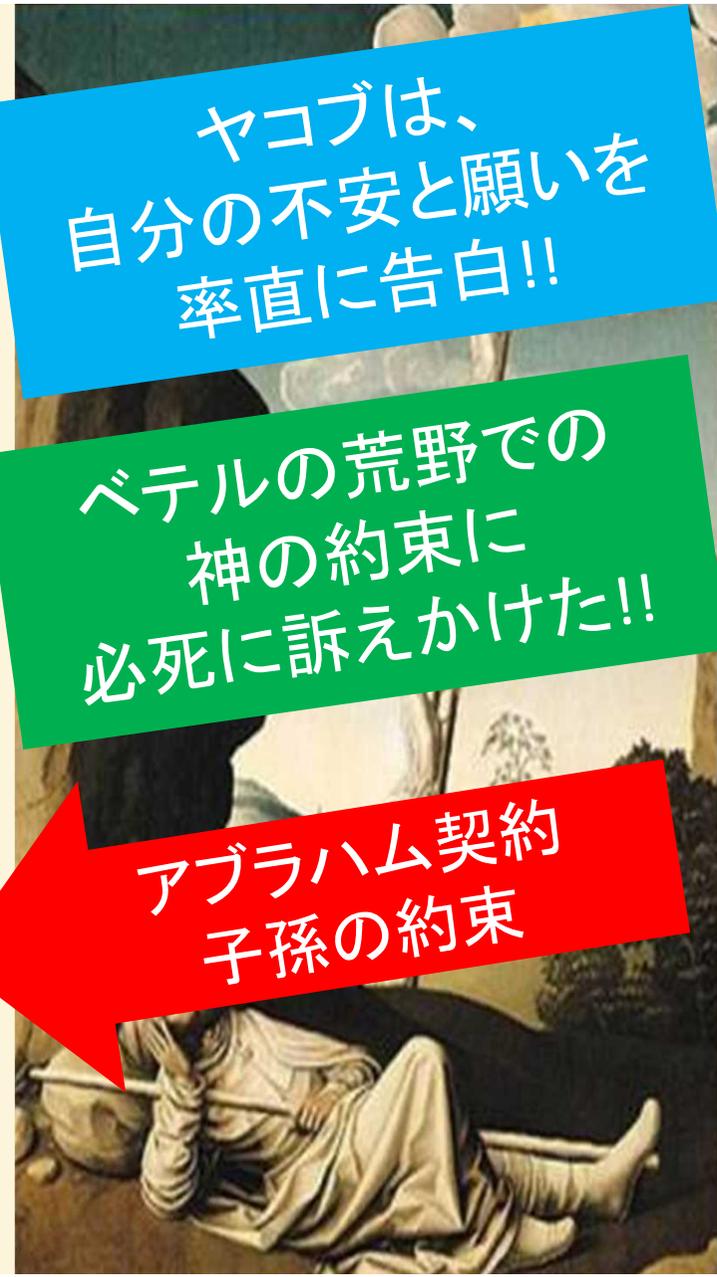
32:11 どうか私の兄、エサウの手から私を救い出してください。彼が来て、私をはじめ母や子どもたちまでも打ちはしないかと、私は彼を恐れているのです。

32:12 あなたはかつて『わたしは必ずあなたをしあわせにし、あなたの子孫を多くて数えきれない海の砂のようにする』と仰せられました。」

ヤコブは、
自分の不安と願いを
率直に告白!!

ベテルの荒野での
神の約束に
必死に訴えかけた!!

アブラハム契約
子孫の約束



【ヤコブの計画】 創32:13～23

■ ヤコブは、計580頭の家畜を贈り物にし、
9つの群れに分け、距離をおいた。

「ヤコブは、私より先に行く贈り物によって彼をなだめ、そうして後、彼の顔を見よう。もしや、彼は私を快く受け入れてくれるかもわからない、と思ったからである。」

■ エサウとの領域の境にあるヤボク川を、
家族と共に渡ると、一人対岸に引き返した。



■ 行きと帰りで経路が違う!!

■ エサウとの再会を最初から念頭に？

■ 財産を殖やしたのも、一つは、
エサウへの贈り物とするため？

■ 「神の前に正しい人」
アブラハム契約の継承者。
それが、ヤコブ。

▲ ハラン

▲ ベテル

▲ ベエル・シェバ

セイルの山地

Ⅱ. ヤボク川での格闘

創世記32:23～33



【ヤコブの格闘】 創32:24～25

ヤコブはひとりだけ、あとに残った。
すると、ある人*が夜明けまで彼と格闘した*。

- 一人、対岸に残り、祈っていたヤコブに、不思議な人物が現れ、ヤコブと格闘した。
- * ある人 ⇒ 神が人の姿で現れた!!
(受肉前のキリスト・第二位格の神)
- * 格闘した ⇒ ヤアベク。アバク(泥にまみれる)
聖書では、ここだけの言葉。

ヤコブが、ヤボク川で、ヤアベクした!!

※重大な場面で頻出するのが、言葉遊び



【勝敗のゆくえ】 創32:25

ところが、その人は、ヤコブに勝てない*のを見て
とって、ヤコブのもものつがいを打った*ので、その
人と格闘しているうちに、ヤコブのもものつがいが
はずれた。

* 神が人間に勝てない？

■ 神は、ヤコブに勝たせるための条件を設けた。

⇒それは、あきらめないで格闘し続けること。

* 関節を外されて戦闘不能になったヤコブ。

⇒神ご自身が、この格闘にピリオドを打たれた。

“かかとを掴む者”ヤコブは、神と戦い通した!!



【戦いの果てに】 創32:26～37

するとその人は言った。

「わたしを去らせよ。夜が明けるから。*

しかし、ヤコブは答えた。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださなければ。*

その人は言った。「あなたの名は何というのか。」

彼は答えた。「ヤコブです。*

- * 神の顔を直視した者は、生きてはいられない。
- * この方は、祝福を与える神だと認識していた。
- * もちろん、神は、ヤコブの名を知っている。
“かかとをつかむ者”という本質を理解させた。
⇒ヤコブは、“神と戦ってきた”ということ。



【ヤコブから、イスラエルへ】 創32:28～29

その人は言った。「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。*「あなたは神と戦い、人と戦って、勝ったからだ。」

* イスラエル ➡ サラ(戦う) + エル(神)
“神と戦った人” “神は戦われる”

- 神と戦ってきたヤコブは、信仰を認められ、神が共に戦ってくださる者、イスラエルとなった。
- 神が認められる、勝利をもたらす条件とは、試練の中で、ただ神を信頼し、ひたすら、神に求め続けること。



【神の御顔を仰ぎ見て】 創32:29～30

ヤコブが、「どうかあなたの名を教えてください」と尋ねると、その人は、「いったい、なぜ、あなたはわたしの名を尋ねるのか」と言って、その場で彼を祝福した。

そこでヤコブは、その所の名をペヌエル*と呼んだ。「私は顔と顔とを合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。

* ペヌエル ...神の御顔。

ヤコブは、この地で神の栄光を仰ぎ見た。

Ⅱコリ 3:16「しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます。」

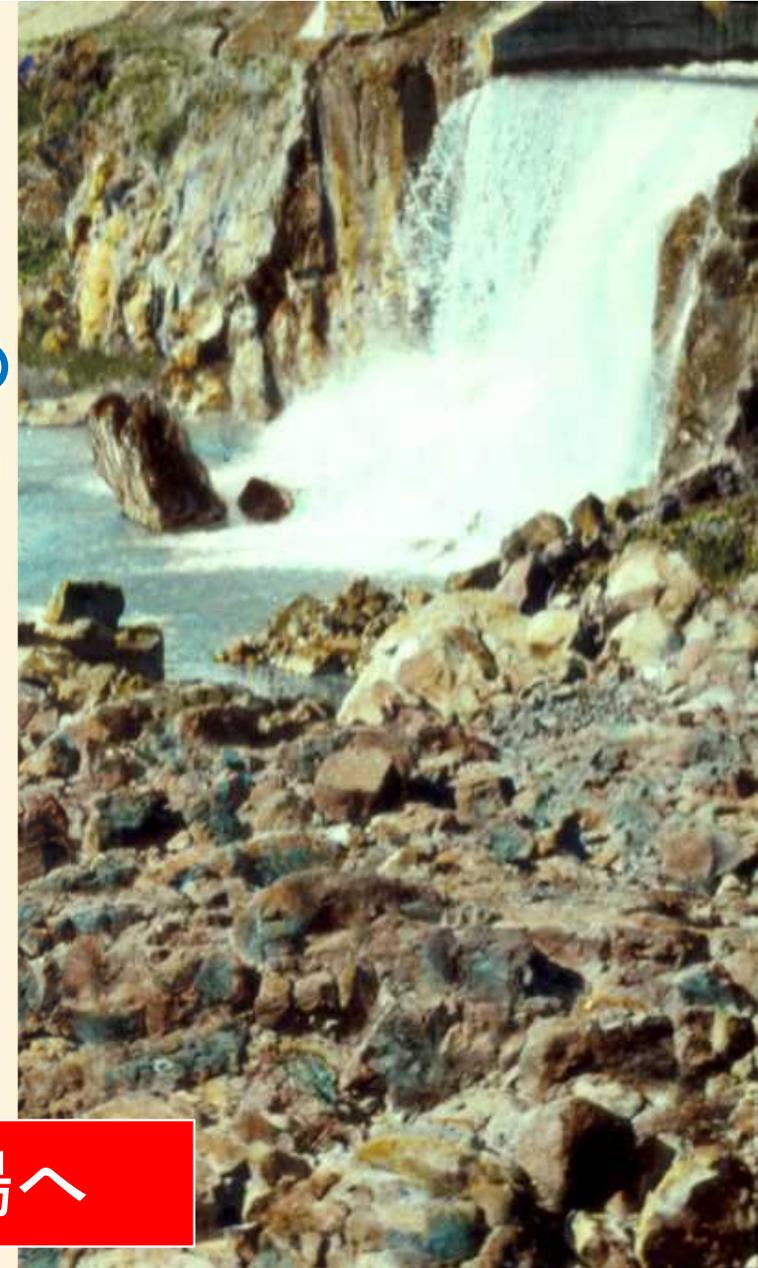


【再びヤコブの上に日が昇り】 創32:31～32

彼がペヌエルを通り過ぎたころ、太陽は彼の上に上った*が、彼はそのもものために足を引きずっていた。それゆえ、イスラエル人は、今日まで、もものつがいの上の腰の筋肉を食べない。あの人¹がヤコブのもものつがい、腰の筋肉を打ったからである。

- * 神との命がけの戦いを戦い抜いたヤコブ。
引きずっていた足は、神の約束のしるし。
- 約束の主ご自身が、ヤコブと共におられ、ヤコブと共に戦ってください。

そして、ヤコブは、兄エサウとの再会の場へ



Ⅲ. エサウとの再会

創世記33:1~19





ヤボク川を渡り、
いよいよエサウとの再会へ

ハラシ

ヤボク川

▲ベテル

▲ベエル・シェバ

セイルの山地

【エサウの一行を前に】 創33:1～3

ヤコブが目を上げて見ると、見よ、エサウが四百人の者を引き連れてやって来ていた。ヤコブは子どもたちをそれぞれレアとラケルとふたりの女奴隷とに分け、女奴隷たちとその子どもたちを先頭に、レアとその子どもたちをそのあとに、ラケルとヨセフを最後に置いた。

ヤコブ自身は、彼らの先に立って進んだ。彼は、兄に近づくまで、七回も地に伏しておじぎをした。*

- * 最敬礼 ...兄エサウへの礼を尽くすヤコブ。
- この場でも、“人事を尽くして、天命を待つ”徹底して、リアリストであるヤコブの姿。



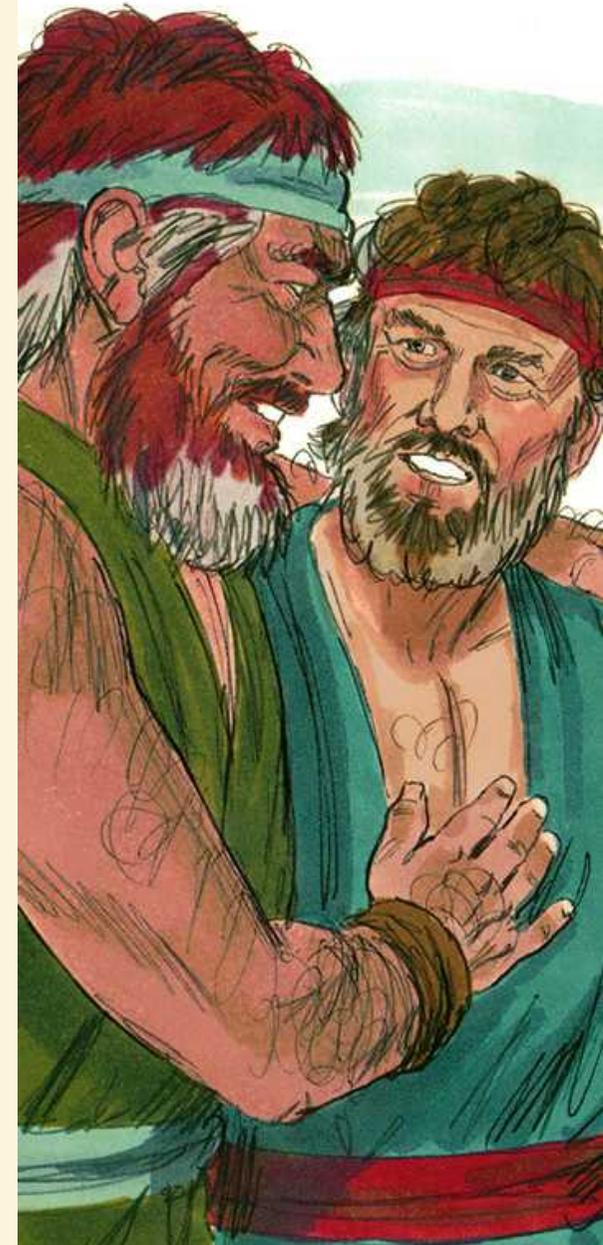
【あっけない再会】 創33:4～7

エサウは彼を迎えに走って来て、彼をいだき、首に抱きついて口づけし、ふたりは泣いた。

エサウは目を上げ、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなたのしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。それから女奴隷とその子どもたちは進み出て、おじぎをした。次にレアもその子どもたちと進み出て、おじぎをした。最後に、ヨセフとラケルが進み出て、ていねいにおじぎをした。

* もはやなんのわだかまりもなかった、エサウ。

■ 神との格闘を終えた時、すべては決していた。



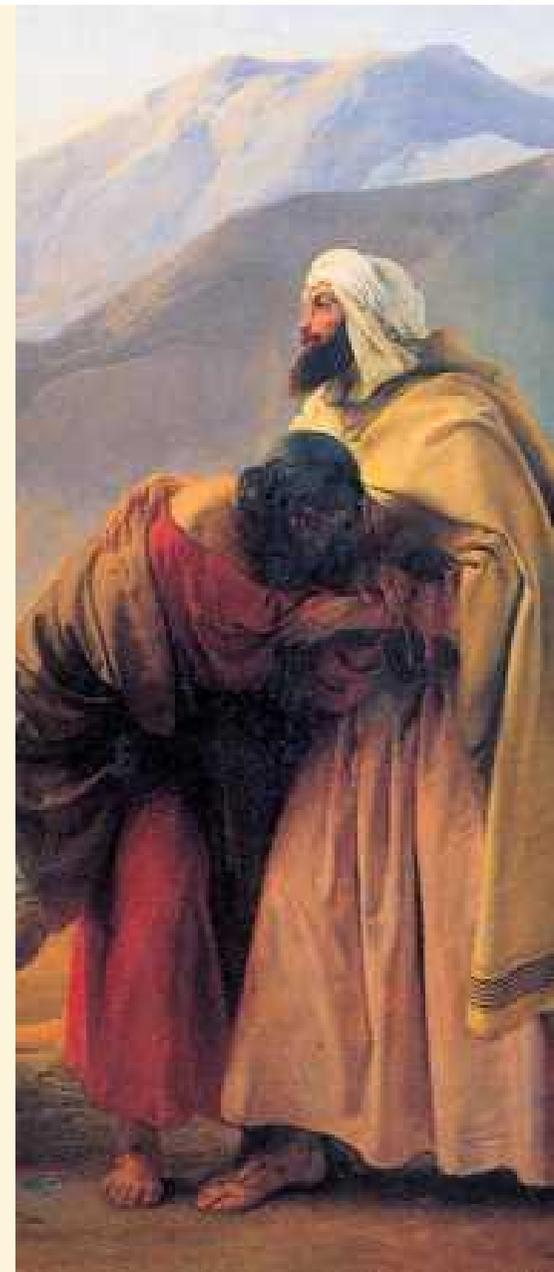
【エサウへの贈り物】 創 33:8～11

それからエサウは、「私が出会ったこの一団はみな、いったい、どういうものなのか」と尋ねた。するとヤコブは、「あなたのご好意を得るためです」と答えた。

エサウは、「弟よ。私はたくさんに持っている。あなたのものは、あなたのものにしておきなさい」と言った。

ヤコブは答えた。「いいえ。もしお気に召したら、どうか私の手から私の贈り物を受け取ってください。私はあなたの顔を、神の御顔を見るように見えています*。あなたが私を快く受け入れてくださいましたから。どうか、私が持って来たこの祝いの品を受け取ってください。神が私を恵んでくださったので、私はたくさん持っていますから。」ヤコブがしきりに勧めたので、エサウは受け取った。

* ヤコブは、神の働きを背後に感じ取っていただろう。



【エサウの誘い】 創 33:12～14

エサウが、「さあ、旅を続けて行こう。私はあなたのすぐ前に立って行こう」と言うと、ヤコブは彼に言った。「あなたもご存じのように、子どもたちは弱く、乳を飲ませている羊や牛は私が世話をしています。一日でも、ひどく追い立てると、この群れは全部、死んでしまいます。*あなたは、しもべよりずっと先に進んで行ってください。私は、私の前に行く家畜や子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくり旅を続け、あなたのところ、セイルへまいります。*」

- * ハラン脱出以来、過酷な強行軍が続いていた。
- * 社交辞令？ 例)お茶漬けでもいかがですか？
和解したとは言え、不信仰者とは歩めない。



【ヤコブの道・エサウの道】 創 33:15～16

それでエサウは言った。「では、私が連れて
ている者の幾人かを、あなたに使ってもらう
ことにしよう。」ヤコブは言った。「どうしてそ
んなことまで。私はあなたのご好意に十分
あずかっております。」

エサウは、その日、セイルへ帰って行った。

- エサウとの和解は果たしたが、
エサウと共に歩むことは拒んだヤコブ。
- エサウは、自力で歩む道を選び、
ヤコブは、神と共に歩む道を選んだ。



【再び約束の地へ】 創 33:17～20

ヤコブはスコテへ移って行き、そこで自分のために家を建て、家畜のためには小屋を作った。それゆえ、その所の名はスコテと呼ばれた。

こうしてヤコブは、パダン・アラムからの帰途、カナンのある地にあるシェケムの町に無事に着き、その町の手前で宿営した。

そして彼が天幕を張った野の一部を、シェケムの父ハモルの子らの手から百ヶシタで買い取った。彼はそこに祭壇を築き、それをエル・エロヘ・イスラエル*と名づけた。

* “神、イスラエルの神” という意味。

ヤコブの新しい名が、初めて用いられている。





IV. まとめと適用

ヤコブのように
自分の使命へ立ち向かおう
ただ主を信頼して

【ヤコブの神との格闘を振り返る】

- “かかとをつかむ者”ヤコブは、人生と戦い、神と戦ってきた。
エサウとの再会を前に、一人、祈り、神と格闘したヤコブ。
- ヤコブの祈りとは、神との格闘、ヤアベク。泥にまみれて戦うこと。
- ヤコブは、あきらめず、神と格闘し続け、その信仰を認められた。

- “神と戦った” ヤコブは、
”神が共に戦ってくださる” イスラエルへと変えられた。
- 神が認められる、勝利をもたらす条件とは、
試練の中で、ただ神を信賴し、
ひたすら、神に求め続けること。

【ヤコブの人生への態度に、信仰に学ぼう】

■「神の目に正しい人」だったヤコブ。

兄を欺いたのも、なんとしても神の計画を果たすため。

ヤコブの過ちは、自分の力で神の計画を実現しようとしたこと。

■ハランでも、父イサクと兄エサウへを忘れたことはなかっただろう。

ハランを出たヤコブは、エサウのいるセイルの地へ向かった。

■自分の知恵を尽くした果てに、神と格闘し、神にゆだねた。

■“人事を尽くして、天命を待つ”

現実を直視し、受け入れ、最善を尽くしたなら、後は神にゆだねよう。

主が、共に働き、すべてを益としてくださる。

【主の御顔を仰ぎ見て】

- ただ福音を信じてきよめられた、クリスチャンの最大の特権は、主の御顔を仰ぎ見ることがゆるされているということ。
- 主を離れ、心が塞がれてしまったときには、再び主に立ち返ろう。
- 主の御顔を仰ぎ見れば、すべての覆いは取り去られる。
主を離れては、立ち返る。繰り返しの中で、変えられていく私がいる。

「しかし、人が主に向くなら、そのおおいを取り除かれるのです。主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。Ⅱコリ3:16～18」

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

戦(たたか)いとおしたヤコブのように、主(しゅ)を求(もと)め続(つづ)ける信仰(しんこう)を与(あた)えてください。

道(みち)を外(はず)れたときには、ふたたび、何度(なんど)でも、あなたの御顔(みかお)を あおぎ見(み)ることができますように。

ご聖霊(せいれい)の力(ちから)によって、あなたに似(に)たものへと、わたしを変(か)えていってください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いの)ります。

アーメン」